

令和6年度 学校評価シート

学校名：専修学校クラーク高等学院大阪梅田校

目指す学校像 ・ 育てたい生徒像	生徒一人ひとりの可能性を見つけ、才能を開花させる学校 1. 特化型コースで「好き」や「得意」を追求する生徒 2. 自ら考え、自ら学ぶ力を身に付け、何事にも主体的に行動できる生徒 3. 夢を見つけ、それに挑戦し、達成を目指す生徒
------------------------	--

本年度の重点目標	1 教育の質の向上（カリキュラム・マネジメント）と非認知能力を育む探究型授業の推進
	2 グローバル社会で活躍するための英語力の向上と未来を生き抜くための21世紀型スキルの育成
	3 保護者や地域社会との積極的な連携による開かれた学校の実現

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する。

※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。

※ 学校関係者評価委員会は、元兵庫県教育次長・保護者代表・卒業生代表で構成した。

※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する。

自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	現状> 昨年度総合進学コースを中心に進めてきたが、今年度は全コースで探究学習を実施することができている。コースによってスキルの差はあるが、生徒自らが課題解決に取り組む姿勢が見えてきている。今後より一層磨きをかけ実績が出るようにしていく。 課題>	個々の成長を可視化できる仕組みを構築する。	定期的の確認テストを行い、効果を測定する。また、管理職とコース長との会議を実施し、改善策を検討する。	・定期的な実施ができたか。 ・個々の効果測定ができたか。	・コースにより差はあったが、概ね定期的に実施ができた。 ・効果測定についても昨年より改善を図ることができた。	B	次年度も、知識・技能の習得と主体性・多様性・協働性等の非認知能力の育成が図られるよう、各コース・教科での探究学習や教科横断型の探究学習を推進していく。また、今後も管理職とコース長との定期的な会議を実施し、コース授業の内容の充実を図っていく。
	・教員のよってスキルの差が出てきている ・コース授業の内容の充実 ・探究学習の充実	実施している授業の定期的な見直しと検討を実施する。	定期的に教職員研修を実施し、情報共有と改善策を検討する。また、管理職とコース長との会議を実施し、改善策を検討する。	・定期的な実施ができたか。 ・適切なフィードバックの実施ができたか。	・定期的な実施ができた。 ・リアルタイムなフィードバックも昨年に比べてできるようになった。	A	
		21世紀型スキルを意識した授業改革を進める。	各コース・教科での探究学習を計画的に推進し、PBL型授業の充実を図る。	・主体的・対話的で深い学びが実践できたか。 ・主体的に学びに取り組む態度の育成が図られたか。	・依然として教員によってスキルの差が出てきている。 ・生徒の主体性が向上してきている。	B	
2	現状> 生徒が意欲的に取り組めるように授業を工夫し、生徒の英語力の向上に努めたい。特に英語に対する苦手意識の強い生徒への指導、支援を強化する必要がある。 課題>	英語4技能の習得を目的とした独自の英語教育を実現する。	英語の授業の内容の充実と4技能に基づいた担当指導教員を配置する。	・英語力の向上が図られたか。 ・効率的な授業展開ができたか。 ・生徒の満足度が向上したか。	・4技能がバランスよく向上してきた。 ・生徒の満足度が向上したとは必ずしも言えない。	B	昨年度に引き続き、生徒の学習意欲を喚起させる工夫をした教材を用いて授業を行うことで英語力を向上させることができたが、根本的に英語が苦手な生徒に対しての解決策となるような授業ができたわけではなく、低レベルの生徒の合格実績に結びつかなかった。ただ、昨年よりも定期的な放課後の対策授業を増やしたことで一定の成果も認められた。
	・グローバル社会を生き抜く力の一つである、複言語能力を育てるまでには達していない ・英語の授業の更なる充実 ・英検合格者数の増加	補講等の時間を利用し、自主的に学習に取り組める環境を整える。	英単語を効率よく学習できるアプリを導入する。放課後には対策講座や英検受験指導を実施する。	・継続的な活動ができたか。 ・生徒のニーズに合わせた講座の開設ができたか。	・朝学習での単語の学習時間は十分に確保できないこともあったが、放課後補講は複数のレベルで継続的に実施することができた。	B	
		生徒個々の目標を設定し、合格までの計画的な対策を立てる。	年度当初に一人別の目標設定を行い、英検については第1回目から全員受験を実施する。	・適切な目標の設定ができたか。 ・英検全員受験は実施できたか。 ・合格までの計画的な対策ができたか。	・適切な目標設定は昨年よりはできたが、まだ十分とは言えない。 ・英検全員受験は実施できたが、目標とする合格実績は出せなかった。	B	
3	現状> ボランティア活動などを通じ地域社会との連携は促進されてきている。また、保護者会だけではなく、公開授業の実施など保護者を含め外部の方を校内に招き、教育活動を対外的に伝えることになった。 課題>	大学・企業・地域と繋がる仕組みを構築する。	連携授業やイベントを企画・実行し、対外的にアピールする。	・地域と連携したイベントの実施ができたか。 ・生徒の活動をアピールできたか。	・北区でのボランティア活動やUnicefとの連携、中高連絡会の実施をはじめ、様々なボランティア活動や地域の行事に参加した。また、大学との連携を強化することができた。	A	企業のみならず大学等の教育機関との連携を拡大し、本校の教育活動の対外的な発信をより一層充実することで認知向上に繋げていきたい。
	・外部機関と連携した更なる企画の提案 ・保護者への情報公開	生徒の活躍をリアルタイムに配信できる仕組み（ICTの活用）を作る。	ICTツールやオンラインを活用した情報配信と保護者会の定期的な開催に努める。	・保護者会、情報配信の定期的な実施ができたか。 ・ICTの活用が十分にできたか。	・従来のメールやStudyplusに加えてW E Bやインスタなどによる定期配信ができた。 ・保護者会や説明会に加え公開授業を複数回実施できた。	A	

学 校 関 係 者 評 価
実 施 日 令和 7 年 10 月 15 日
学校関係者からの意見・要望・評価等
・ 昨今教員不足のニュースをよく見る。教員の指導スキルについても、差が出てきているようではあるが、それを改善するための研修については今後も継続して、生徒のために頑張って欲しい。 ・ 学校は生徒が中心だが、その生徒との関係性づくりが大切であり、難しい生徒もいるとは思いますが、上手く接することができるように指導して欲しい。生徒一人一人に向き合って対応する事のできる教員を育成して欲しい。 ・ 主体性の向上は大切。生徒自身がこれからの可能性をそれぞれが考え、学んで欲しい。 ・ 色々な学力層がある中で、英語力の差は仕方ないと思うが、それでも生徒の意欲を掻き立てるような授業を工夫して欲しい。 ・ 社会と繋がっていくことが大事。色々な人たちと触れることで、自身の見方が変わると思う。